

平成25年度 第1回 福井県長寿医療運営懇話会 概要

日 時 平成25年9月19日(木) 14:00~16:30
場 所 福井県自治会館 6階 601研修室
出席者 村上会長、織田副会長、五十嵐委員、廣瀬委員、小林委員、宮地委員、吉村委員(代理)
事務局 上木事務局長、野村事務局次長、高倉業務課長 他5名

議 事

- 1 会長挨拶
- 2 新委員紹介
- 3 報告事項

(1) 制度を取り巻く状況について

(2) 制度の運営状況について

◇被保険者数等の状況について

◇保険料の収納状況について

◇短期被保険者証交付状況について

◇医療費の状況について

◇医療費適正化事業について

- ・保険事業の実施状況について
- ・ジェネリック医薬品の使用状況について
- ・国保データベース(KDB)システムについて

(3) 平成26・27年度保険料率改定について

報告事項に対する意見・質問・回答

【委員】社会保障制度改革国民会議で検討されている、外来・入院に関する給付の見直しについて、詳しく教えてほしい。

〔事務局〕国が現時点での検討項目として示したものであり、診療報酬改定が決定される12月に、具体的に示されるものと考えます。

【委員】75~79歳の被保険者数が減少している理由は何か。

〔事務局〕日中戦争の影響で、減少している。

【委員】短期被保険者証の敦賀市・小浜市の交付者数が多いのは、原発事故の影響か。

〔事務局〕保険料を納めない場合は、原則、被保険者証ではなく、短期被保険者証を交付しなければならない。よって、両市は、原則どおりしっかり対応しているため、短期被保険者証の交付者数が多いものと考えられる。

【委員】平成24年度一人当たり年間医療費が、多い順に美浜町・福井市となっているが、多い原因は何か。

〔事務局〕美浜町に確認したところ、人工透析を受けている者が75歳年齢到達により、後期

高齢の被保険者となったため、医療費が増加したとのこと。また、福井市は受診率が高いため、医療費も多くなる。なお、あわら市は入院者が減ったため、1位から3位となった。

【委員】後期高齢者健康診査事業について、市町によって受診率が低いところが見られるが。
〔事務局〕集団・個別ともに、受診率を高めるよう市町に働きかける。

【委員】ジェネリック医薬品利用促進活動に対する被保険者からの反応はあるか。
〔事務局〕特段ない。

【委員】ジェネリック医薬品使用の費用対効果について、知りたい。
〔事務局〕今現在、後発医薬品の数量ベースでは32.2%となっており、当広域連合における医薬品の差額が、年間26億8千万円となっている。

【委員】医師がジェネリック医薬品の使用を勧めることはあるのか。

【委員】医師が勧めることはあまりない。薬剤師が使用を勧める。

【委員】国保データベース（KDB）システムについて、国保連合会がデータ処理を行うのか。
〔事務局〕実際の処理は、国保中央会が行う。

【委員】KDBシステムのデータは、家庭医も見ることができるのか。
〔事務局〕基本的には、広域連合や市町などの保険者が見られるものである。個人情報を取り扱うため、医療機関や被保険者は見ることはできない。

【委員】平成24・25年度の保険料率は据え置きだったが、26・27年度は改定するのか。
〔事務局〕前回は福井県後期高齢者医療財政安定化基金を使わずに据え置きだった。医療費の10分の1は保険料でまかなうことになっており、今後、医療費・被保険者数ともに増加するため、保険料を上げざるを得ない。また、消費増税もあり、12月の診療報酬改定を注視したい。ただ、今回上げなければ、28・29年度の保険料率改定をどうするのかという問題が出てくる。次回の懇話会でも、各委員の意見を聞きたい。

【委員】診療報酬は、どの程度上がるのか。

〔事務局〕診療報酬については、単純に3%増となるのではなく、現在の見込みとしては1.2%増と国から聞いているが、最終的に決定されないと分からない。

【委員】高血圧・虚血性疾患等を一つの疾病分類としているが、できればこれを細かく分けられないものか。

〔事務局〕KDBシステムの利用により、そのような細かな分類が可能ではないかと考えている。

【委員】県立・赤十字・済生会病院などでは、状態が落ち着くと地元の病院への転院を勧められる。このような大病院と地域の医院では医療サービスに違いがあるのか。

【委員】大病院は回転率100%であり、入院期間が短くなるほど1日あたりの単価が高くなり、収入が多くなるというシステムになっている。例えば、大病院はグリーン車であり、患者にとって至れり尽くせりである。地域の医院は、普通車並みの医療サービスと思ってもらいたい。